



日本臨床ストレス応答学会

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

BSSR Japan NEWS LETTER No. 17

2022. 7.15

第 15 回臨床ストレス応答学会大会開催報告

第 15 回大会長 永井 義隆（近畿大学医学部脳神経内科）

令和 3 年 11 月 19 日（金）～20 日（土）に大阪大学吹田キャンパスにおいて、第 15 回日本臨床ストレス応答学会大会が開催され、私が大会長を務めさせていただきましたので、ご報告申し上げます。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、2 年ぶりの大会となりましたが、十分な感染症拡大対策を行い初めてのハイブリッド形式にて開催いたしました。現地参加者 40 名、オンライン参加者 44 名、合計 86 名もの多数の方々にご参加いただき、活発な討論が行われたことに心より御礼申し上げます。

本大会では、特別講演として本学会の創設時から携わって来られた永田和宏先生（JT 生命誌研究館）をお招きし、「熱ショックタンパク質からプロテオスタシスまで：領域発展の現場にあって 35 年」というタイトルで、本学会が研究領域の発展に果たしてきた役割などをご講演いただきました。そしてもうひとつの特別講演として大阪大学の吉森保先生をお招きし、「オートファジー：疾患と老化に対抗する細胞の守護者」というタイトルでオートファジーのストレス、老化疾患との関わりについての最新の研究成果をご講演いただきました。また、シンポジウムでは学術変革領域研究として先駆的な研究を展開している「マルチファセット・プロテインズ」と共催し、領域代表の田口英樹先生（東京工業大学）と私の企画にて、4 名のシンポジストにより非典型的翻訳が切り開く拡大するタンパク質世界の基礎研究から、タンパク質凝集を標的とした神経変性疾患治療の臨床応用研究まで、最新知見の講演と討論が行われました。もうひとつのシンポジウムとして、吉岡祐亮先生（東京医科大学）と武内敏秀先生（近畿大学）の企画による「エクソソームの基礎と疾患」では、5 名のシンポジストにより細胞間コミュニケーションの担い手として注目を浴びているエクソソームに焦点を当て、疾患バイオマーカーや治療応用までを視野に入れた最新知見の講演と討論が行われました。さらに、ランチョンセミナーでは大阪大学の望月秀樹先生に「神経変性疾患における α -Synuclein」というタイトルで、タンパク質凝集と神経変

性疾患との関わりについてご講演いただきました。一般演題として14題の口頭発表と、12題の若手研究奨励賞候補者には Spatial Chat を活用したオンラインでのポスター討論に加えて口頭にてポスターレビューを行っていただき、5名の若手研究者の方々（後述）が若手研究奨励賞を受賞されました。

本大会では、いずれの演題においても活発な討論が展開され、それぞれの演題の質の高さに改めて感銘を受けました。招待の先生方を含め、多くの会員が最後まで活発な議論に参加していただけたことに深く感謝申し上げます。最後に、本大会の準備と運営にご協力いただきました学会会員の皆様、協賛いただきました企業の皆様および教室員に厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況が続いておりますが、with コロナ時代の中で、今後もストレス応答に関わる基礎研究者と臨床研究者・医師が一堂に会して討論できることを切に願っています。

令和4年7月吉日

近畿大学医学部脳神経内科 主任教授

永井 義隆



The Biomedical Society for Stress Response, Japan



日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞

2021 年度第 9 回若手研究奨励賞は、足立弘明選考委員長をはじめとする 4 名の選考委員の厳正な審査のもと、以下の 5 名の先生が選ばれました。

上田 哲大（京都府立医科大学大学院医学研究科脳神経内科学）

「微小管依存的細胞内輸送の障害がストレス顆粒の TDP-43 動態を破綻させ、筋萎縮性側索硬化症における TDP-43 の凝集を促進する」

岡田 真理子（山口大学大学院医学系研究科医化学講座）

「液相分離を介した HSF1 転写複合体の解析」

久保田 裕二（東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野）

「DNA 損傷ストレスにより活性化するシグナル伝達経路と細胞運命決定機構の解析」

笹谷 聖（札幌医科大学医学部病理学第一講座）

「シスプラチンは HSF1 の活性化と HSP90 の誘導を介して口腔扁平上皮癌細胞上の PD-L1 発現を亢進させる」

中田 創太（同志社大学生命医科学部医生命システム専攻）

「NRF1 はプロテアソーム阻害時に p62 を介した選択的オートファジーを誘導する」

2021 年度 若手研究奨励賞選考委員

足立 弘明（産業医科大学）選考委員長

徳永 文稔（産業医科大学）

鳥越 俊彦（札幌医科大学）

西頭 英起（宮崎大学）

第 16 回 日本臨床ストレス応答学会大会のご案内

第 16 回日本臨床ストレス応答学会大会を令和 4 年 (2022 年) 11 月 5 日 (土)、6 日 (日) の 2 日間にわたり開催させていただくことになり、大会長としてご挨拶申し上げます。日本臨床ストレス応答学会は、生体の様々なストレス応答の分子機構の理解と臨床への応用を目的として 1996 年に立ち上げられた臨床ストレス蛋白質研究会が、より広範なストレス応答を対象とし、より多くの基礎および臨床研究者や、医療および社会への応用を目指す方々の学術交流の場を目指して 2006 年に学会へと発展したものです。生物は常時様々なストレス侵襲を受けており、各種生体防御応答を介して生体の恒常性維持に努めています。ストレス応答は、生体機能の恒常性の維持に不可欠であり、その異常が多くの難治性疾患の原因となっています。高度競争社会の構築に伴い日々高まる緊張下にある現代社会においては、多くの疾患がストレス応答の異常に基づくことが明らかになってきました。さらに、未曾有の高齢化社会を迎えている今日、悪性腫瘍、自己免疫疾患、神経変性疾患、動脈硬化性・代謝性疾患、精神疾患などの疾患を有する人々の数は増加し、さまざまな分野の知を統合してストレス応答のしくみを解明し、健康な状態やこれらの疾患を制御することは今後益々重要であると考えられます。本学会は、細胞ストレス応答の生理機能とその破綻が引き起こすヒト疾患病態の解明及び創薬への貢献という目標に向かって多様な分野の基礎・臨床研究者が一堂に会し、討議しています。このように重要な日本臨床ストレス応答学会大会の会長を務めさせていただけることを大変光栄に存じますとともに、その責任の重さを感じております。

本講演会では、特別講演 2 題、シンポジウム 8 題を企画しています。特別講演には、**ユビキチン・プロテアソーム系、 α B-クリスタリン**等のご研究で常に世界をリードされておられる田中啓二先生（東京都医学総合研究所）と跡見順子先生（東京農工大学）にそれぞれの最新のトピックスを、また、シンポジウムでは、基礎系のテーマとして「**細胞恒常性を担うシグナルと遺伝子発現の制御**」、臨床系のテーマとして「**ストレス応答と疾患 ; Bridges to Clinics**」と題して、細胞ストレス応答に関連する医科学・医学の重要性を感じていただければと思います。一般演題も例年同様に口頭発表とポスター討論を行い、若手研究者育成を目的とする若手研究奨励賞も 5 名程度の表彰を予定していますので、多数の若手研究者の応募をお待ちしております。

わが国におけるコロナ禍は、すでに 2 年以上の間続いており、学会活動も含めた様々な社会・経済活動が制限されています。この間にインターネットを用いたコミュニケーションが一気に広がり、学会活動や社会に大きな変化がもたらされました。一昨年の大会は延期、昨年の第 15 回大会はハイブリッド形式で開催され、face to face のコミュニケーションではないという限界はありましたが、日常診療、研究、子育てなどで多忙にされてお

られる先生方や時間的または距離的な制約のある会員が参加し易くなったことで、大会の在り方に変化が起こっております。ハイブリッド形式は理想ですが、開催には高額な費用を要し、コロナ禍で今なお懇親会も開けない状況が続いており、学会だけでなく歴史ある都市・北九州を楽しんでいただく予定でしたが、やむを得ず完全 Web 形式で開催させていただきますことにさせていただきました。完全 Web 形式とはいえ、最新の技術を取り入れながら、できるだけ会員の皆様に臨場感を感じていただけるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、全国のスレスス応答の分子生物学、細胞生物学、臨床医学の研究者、および医師、医療・保健関係者が細胞スレスス応答研究の未来に思いを馳せ、20 年後・30 年後を見据えて、「細胞スレスス応答の未来を拓く」ために Web で一堂に会し、最近の進歩と展望について熱い議論を戦わせる有意義な場になることを祈念しております。

令和 4 年 7 月吉日

第 16 回日本臨床スレスス応答学会大会長

産業医科大学神経内科学

教授 足立 弘明

会期：2022年11月5日（土）、6日（日）

会場：完全Web開催

39 歳以下の若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「日本臨床スレスス応答学会若手研究奨励賞」を選考いたします。

詳細は演題申込方法をご覧ください。また、下記の特別講演 2 題、シンポジウム、ランチョンセミナーを予定しています。

特別講演 1

11 月 5 日（土）

田中 啓二 先生（東京都医学総合研究所 所長・理事長）

「プロテアソームの基礎から医学研究へ」

特別講演 2

11 月 6 日（日）

跡見 順子 先生（東京農工大学大学院工学府材料健康科学講座 教授）

「分子シャペロンが生み出す細胞-身心一体科学～ α B-クリスタリンと微小管に注目して」

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

シンポジウム 1「細胞恒常性を担うシグナルと遺伝子発現の制御」

本橋 ぼずみ 先生（東北大学加齢医学研究所 遺伝子発現制御分野 教授）、他

シンポジウム 2「ストレス応答と疾患 ; Bridges to Clinics」

村田 茂穂 先生（東京大学大学院薬学系研究科蛋白質代謝学教室 教授）、他

ランチョンセミナー （予定）

大会事務局：

第16回日本臨床ストレス応答学会大会事務局

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

産業医科大学医学部神経内科学講座内

Tel: 093-691-7438 Fax: 093-693-9842

e-mail: j-sinnai@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

大会参加費： 一般 5,000円 学生 2,000円

（完全 Web 開催のため、お支払い方法につきましては後日お知らせ申し上げます。）

事前参加申込方法：

参加登録は大会ホームページから登録してください。

<http://bssr.jp/endai/>

事前参加申込締切：2022年10月20日（木）

演題申込方法：

本学会の一般演題発表者としてのお申込みは、一人一題に限られます。ただし、他の演題の共著者になることは差し支えありません。また、発表者は本学会員に限ります。申込みには事前参加登録及び年会費の振込みが必要です。

演題応募締切：2022年8月31日（水）

演題申し込み要領は学会ホームページをご覧ください。

<http://bssr.jp/endai/>

若手研究奨励賞について:

日本臨床ストレス応答学会では、若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」を設けます。応募資格・応募方法・選考方法・授賞式に関する詳細は下記の通りです。

- 応募資格: 第16日本回臨床ストレス応答学会大会当日(2022年11月5日)において、39歳以下の若手研究者。
- 応募方法: 演題応募時、抄録ファイルに「若手研究奨励賞に応募する」と記載すること。
- 選考方法: 若手研究奨励賞への応募演題は大会中にWEB口演形式でご発表いただきます。抄録と発表内容を4名の選考委員が審査し、5名程度の受賞者を選出します。
- 授賞式 大会期間中、会長より賞状並びに副賞（賞金）が授与されます。

第 16 回大会実行委員会

会 長：足立 弘明（産業医科大学医学部神経内科）

委員長：中井 彰（山口大学大学院医学系研究科医化学講座）

委員：

石垣 診祐(滋賀医科大学神経難病研究センター)

伊藤 英晃(東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻)

今泉 和則(広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子細胞情報学)

鵜殿 平一郎(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科免疫学分野)

柴田 亮行(東京女子医科大学)

武内 敏秀(近畿大学ライフサイエンス研究所)

徳永 文稔(大阪市立大学大学院医学研究科分子病態学)

鳥越 俊彦(札幌医科大学医学部病理学第一講座)

永井 義隆(近畿大学医学部脳神経内科)

長谷川 隆文(東北大学大学院医学系研究科神経内科学)

樋口 京一(長野保健医療大学地域保健医療研究センター)

養王田 正文(東京農工大学大学院工学府生命工学専攻)

(五十音順)

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

大会事務局:

第16回日本臨床ストレス応答学会大会事務局
〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学医学部神経内科学講座内
Tel: 093-691-7438 Fax: 093-693-9842
e-mail: j-sinnai@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

学会事務局 :

札幌医科大学医学部病理学第一講座内
Tel: 011-611-2111 (内線26910) Fax: 011-643-2310
e-mail: BSSR@sapmed.ac.jp

学会役員・幹事・評議員

学会役員（2022年4月1日～2024年3月31日）

会長 養王田 正文（東京農工大学）
副会長 岩脇 隆夫（金沢医科大学）
総務 木村 洋子（静岡大学）
会計 横田 伸一（札幌医科大学）
広報 江口 傑徳（岡山大学）
企画 足立 弘明（産業医科大学）
企画 永井 義隆（近畿大学）
企画 中井 彰（山口大学）
企画 西頭 英起（宮崎大学）
企画 鳥越 俊彦（札幌医科大学）
監事 鵜殿 平一郎（岡山大学）

アドバイザー 伊藤 英晃（東京大学）
永田 和宏（JT 生命誌研究館）
田中 啓二（東京都医学総合研究所）
柴田 亮行（東京女子医科大学）
樋口 京一（長野保健医療大学）
大塚 健三（中部大学）

名誉会員 野村馨（大月市立中央病院）
佐藤昇志（札幌医科大学）

学会幹事

青江 知彦	帝京大学ちば総合医療センターペインセンター
足立 弘明	産業医科大学医学部神経内科学講座
跡見 順子	東京農工大学工学府材料健康科学
石垣 診祐	滋賀医科大学神経難病研究センター
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
今泉 和則	広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学
今本 尚子	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
岩脇 隆夫	金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野
鵜殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座免疫学分野
漆谷 真	滋賀医科大学内科学講座、脳神経内科
江口 傑徳	岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野
親泊 政一	徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
木村 洋子	静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻
久保田 広志	秋田大学大学院理工学研究科・工学資源学部生命化学科基礎生命化学講座
小林 聡	同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム専攻

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

高橋 良輔	京都大学附属病院神経内科
武川 睦寛	東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
徳永 文稔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
鳥越 俊彦	札幌医科大学医学部病理学第一講座
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	近畿大学医学部脳神経内科
西頭 英起	宮崎大学医学部機能生化学
長谷川 隆文	東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
藤木 幸夫	九州大学生体防御医学研究所オルガネラホメオスタシス研究室
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
松岡 雅人	東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座（環境・産業医学分野）
森 和俊	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室・ゲノム情報分野
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座

以上 33 名（五十音順）

学会評議員

青江 知彦	帝京大学ちば総合医療センターペインセンター
秋吉 一成	京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻生体機能高分子分野
足立 弘明	産業医科大学医学部神経内科学講座
跡見 順子	東京農工大学工学府材料健康科学
石垣 診祐	滋賀医科大学神経難病研究センター
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
伊藤 英晃	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻
今泉 和則	広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学
今本 尚子	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
岩脇 隆夫	金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野
鵜殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座免疫学分野
漆谷 真	滋賀医科大学内科学講座、脳神経内科
江口 傑徳	岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野
及川 大輔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
大塚 健三	中部大学
親泊 政一	徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野
小山田 正人	藤女子大学人間生活学部食物栄養学科
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
勝野 雅央	名古屋大学大学院医学系研究科神経内科
金関 貴幸	札幌医科大学医学部病理学第一講座
木村 洋子	静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻
久保田 広志	秋田大学大学院理工学研究科・工学資源学部生命化学科基礎生命化学講座
桑田 一夫	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科
小亀 浩市	国立循環器病研究センター分子病態部

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

小瀬 真吾	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
後藤 知己	熊本大学教育学部養護教諭養成課程
小林 聡	同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム専攻
小林 正伸	北海道医療大学看護福祉学部生命基礎科学講座
佐藤 昇志	札幌医科大学医学部
佐原 弘益	麻布大学獣医学部
塩田 正之	大阪公立大学大学院医学研究科分子制御生物学
柴田 亮行	東京女子医科大学
関山 敦生	大阪大学大学院薬学研究科先制心身医薬学寄附講座
祖父江 元	名古屋大学大学院医学系研究科脳神経病態制御
高橋 良輔	京都大学附属病院神経内科
武内 敏秀	近畿大学ライフサイエンス研究所
武川 睦寛	東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野
田中 啓二	東京都医学総合研究所
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
田村 裕	千葉大学大学院医学研究院
千葉 進	医療法人溪仁会札幌西円山病院
徳永 文稔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
鳥越 俊彦	札幌医科大学医学部病理学第一講座
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	近畿大学医学部脳神経内科
永田 和宏	JT生命誌研究館
西田 憲生	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部ストレス制御医学分野
西頭 英起	宮崎大学医学部機能生化学
野村 馨	大月市立中央病院総合診療
長谷川 隆文	東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
樋口 京一	長野保健医療大学地域保健医療研究センター
久留 一郎	国立病院機構米子医療センター/鳥取大学医学部医学科ゲノム再生医学講座
藤木 幸夫	九州大学生体防御医学研究所オルガネラホメオスタシス研究室
古橋 真人	札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
増井 憲太	東京女子医科大学医学部病理学第一講座
増本 純也	愛媛大学大学院医学系研究科ゲノム病理学分野
松岡 雅人	東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座（環境・産業医学分野）
森 和俊	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室・ゲノム情報分野
山田 健人	慶應義塾大学医学部病理学教室
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座
吉田 賢右	京都産業大学工学部生物工学科
和田 郁夫	福島県立医科大学医学部附属生体情報伝達研究所細胞科学研究部門

以上66名（五十音順）

~ **Cell Stress Society International** からのお知らせ ~

The Society is open to any qualified researcher investigating stress responses using molecular and cellular approaches, or bridging from the molecular and cellular level to organismal biology including studies of natural populations and to clinical and environmental applications. Founded in 1999, the society promotes collaboration among the various fields of stress research, international scientific cooperation, and public awareness. This year we celebrate 23 years!

Second Virtual International Congress on Cellular and Organismal Stress

WEB 開催, September 8-9, 2022

<https://www.cssimeeting.com/>

**Second Virtual International Symposium on
Cellular and Organismal Stress Responses
September 8-9, 2022**



Keynote Speakers

Peter W Piper, University of Sheffield, UK

Speakers

Anat Ben-Zvi, Ben-Gurion University, Israel

Jeff Brodsky, University of Pittsburgh, USA

Melody S. Clark, British Antarctic Survey,

Giorgio Colombo, University of Pavia, Italy

Marc Cox, University of Texas at El Paso, USA

Frank Echtenkamp, NCI, USA

Adrienne Edkins, Rhodes University, South Africa

Brian Freeman, University of Illinois, USA

Pierre Goloubinoff, University of Lausanne, Switzerland

Wei Li, USC, USA

Valérie Mezger, Université Paris Cité, France

Len Neckers, NCI, USA

Nadinath Nillelegoda, Monash University, Australia

Chris Prodromou, University of Sussex, UK

Paolo de le Rios, (EPFL), Switzerland

Lea Sistonen, Abo Akademi University, Finland

Jane Trepel, NCI, USA

Francis Tsai, Baylor College of Medicine, USA

Mark Woodford, State University of New York, USA

Organizers

Patricija van Oosten-Hawle, University of Leeds, UK

Andrew Truman, UNC Charlotte, USA

Mehdi Mollapour, State University of New York, USA

Free registration visit www.CSSImeeting.com

～ 事務局からのご連絡 ～

入会手続き：

学会ホームページから手続きをお願い致します。

<http://bssr.jp/nyukai/>

年会費：

一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円 企業賛助会員 50,000 円

以下の郵便口座へお振込ください。

加入者名：臨床ストレス応答学会

口座番号：02730-3-64452

大会ポスターについて：

第 16 回日本回臨床ストレス応答学会大会のポスターを事務局に用意しております。できるだけ多くの基礎・臨床研究者に参加していただくため、ポスターを配布して宣伝していただきますようお願い申し上げます。事務局まで必要枚数をお知らせ下さい。

日本臨床ストレス応答学会事務局

〒060-8556 札幌市中央区南 1 条西 17 丁目

札幌医科大学医学部病理学第一講座内 金関貴幸

TEL: 011-611-2111 (内線 26910) FAX: 011-643-2310

e-mail: BSSR@sapmed.ac.jp

ホームページ：<http://bssr.jp>